

特別展

密教相承

— 称名寺長老の法脈 —



令和3年
12月3日(金)

令和4年
1月23日(日)

不動明王立像 鎌倉時代(称名寺所蔵/井上久美子撮影)

ご来館の際は、新型コロナウイルス感染症まん延防止へのご協力をお願いいたします。
発熱等、体調のすぐれない方はご来館をお控えください。
状況に応じて、会期や開館時間等を変更あるいは中止する場合があります。
最新の情報は、当館ホームページ、Twitterをご確認ください。
また、お電話でのお問合せも承ります。

開館時間 9時～16時30分(入館は16時まで)
休館日 毎週月曜日(1月10日を除く)、
12月27日(月)～1月4日(火)、1月11日(火)
交通 京急線 金沢文庫駅下車 東口より徒歩12分
(快特で品川より33分、横浜より16分)
シーサイドライン 海の公園南口駅下車 徒歩10分
(JR 根岸線 新杉田駅接続)

観覧料 20歳以上 400円(300円)
20歳未満・学生 250円(200円)
65歳以上 200円(100円)
高校生 100円
中学生以下、障がい者は無料
()内は20名以上の団体料金
協力 横浜市金沢区役所

神奈川県立 金沢文庫
Kanagawa Prefectural KANAZAWA-BUNKO Museum
〒236-0015 横浜市金沢区金沢町142
TEL 045-701-9069 / FAX 045-788-1060
<https://www.planet.pref.kanagawa.jp/city/kanazawa.htm>

—講座のご案内—

連続講座「**国立金沢文庫、研鑽の90年**」各回13:30～15:30

国立金沢文庫の学芸員の使命は、収蔵する文化財を研究し、その価値を見極め、世に知らしめることです。開館以来90年もの間続けられてきた、この研鑽の歴史を、長年当館に勤め、研究者として今も現役の、金沢文庫OBに語り尽くしていただきます。先達の成果を継承しつつ、それぞれの視点で新たな結論を導き出してきた5人の講師が、国立金沢文庫伝統の学問の姿を浮き彫りにします。

- ① 1月8日(土) 津田徹英氏(青山学院大学教授)
「金沢文庫における仏像研究と展示」
- ② 1月9日(日) 福島金治氏(愛知学院大学教授)
「金沢文庫文書の日録作り—初代文庫長関靖先生へもどる仕事—」
- ③ 1月15日(土) 永井晋氏(関東学院大学客員教授)
「金沢文庫古文書の世界—北条氏の視点で歴史を語りつづけること—」
- ④ 1月16日(日) 西岡芳文氏(上智大学特任教授)
「金沢文庫本の数奇な運命～『法曹類林』と『卜筮書』」
- ⑤ 1月22日(土) 高橋秀榮氏(金沢文庫元文庫長)
「第14代文庫長が語る学芸業務回想」
- ⑥ 連続講座セット(①～⑤の全5回分)
こちらをお申込みの方は、1回に限り本特別展を無料でご覧いただけます。

◆定員

60名(定員を超えた場合は抽選。ただし、⑥の連続講座セットでお申込みの方を優先とし、締め切り日の時点で⑥の申込者が定員に満たなかった場合は、①～⑤の各回申し込みが有効となります。なお、⑥に①～⑤の各回申し込みを加えて定員を超えた際には、①～⑤の各回申し込みの部分のみで抽選となります。)

◆受講料

①～⑤は各回1,000円、⑥は1月8日の受講時に5,000円(一度納入いただいた受講料は返金いたしません)。

◆申込方法

金沢文庫HP「講座申込フォーム」、往復はがき(1講座につきお1人様1通。ただし、⑥は1通で可)に、講座名(開催日)、住所、氏名、電話番号を明記の上、12月21日(火)必着でお申し込みください。

月例講座「密教伝授—称名寺の法流」

12月26日(日) 13:30～15:00
道津綾乃(金沢文庫主任学芸員)

◆定員 50名(定員を超えた場合は抽選)

◆申込方法 金沢文庫HP「講座申込フォーム」、往復はがき(お1人様1通)に、講座名(開催日)、住所、氏名、電話番号を明記の上、12月12日(日)必着でお申し込みください。

月例講座「密教の伝来—中国から日本へ—」

1月23日(日) 13:30～15:00
櫻井唯(金沢文庫学芸課職員)

◆定員 50名(定員を超えた場合は抽選)

◆申込方法 金沢文庫HP「講座申込フォーム」、往復はがき(お1人様1通)に、講座名(開催日)、住所、氏名、電話番号を明記の上、1月9日(日)必着でお申し込みください。

講座は新型コロナウイルス感染症の感染状況により、中止の可能性があります。中止の場合は、お葉書でお申し込みの方にはお葉書かお電話で、電子申請でお申し込みの方には頂いたメールアドレスへご連絡いたしますので、連絡先を必ずお書きください。

特別展 みつぎようそうじよう 密教相承

一二六七年に開山を迎えた称名寺は、約二万点の仏教文献群を伝える中世東国を代表する寺院です。蔵書の約七割が密教典籍であることは、称名寺が、密教の法脈を縷々相承してきた寺院であることを如実に示しています。今年には、二世長老・明忍房鋸阿(一二六一～一三三八)の生誕七六〇年、三世長老・本如房湛睿(一二七一～一三四六)の生誕七五〇年にあたり、回顧にふさわしい年まわりです。本展示では、国宝称名寺聖教・金沢文庫文書のうち、称名寺の僧侶達が伝授した密教典籍をもとに、称名寺が執行してきた密教修法の様子を仏像、仏画、仏具を交えて再現し、密教寺院・称名寺の中世の姿をご紹介します。



主要展示資料

- 不動明王像并二童子像
- 審海上人坐像
- 重文 金銅装宝篋印塔
- 重文 磬架 重文 鉞子
- 密教法具(五鈷鈴、三鈷杵、独鈷杵)
- 高机 香象 舍利塔
- 壇線縫具
- 真言八祖図(龍華寺所蔵)
- 十二天図
- 両界種子曼荼羅

- 国宝附 頭弁像
- 弘法大師像
- 興正菩薩像
- 伝湛睿像
- 興教大師像
- 国宝 灌頂秘口
- 国宝 伝法灌頂血脈
- 国宝 伝法灌頂支度案
- 国宝 伝法灌頂図
- 国宝 授与灌頂記

